

令和5年度 普及活動成果集

多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして！



福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター

令和6年3月

地域計画策定支援

営農基礎講座
イチゴ現地視察

営農基礎講座
堆肥舎現地視察

花苗納品時支援

イチゴ若手生産者ほ場
生育調査

専門家派遣
社会保険労務士への相談

はじめに

北九州地域の農業者並びに関係機関の皆様には、平素より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画」が目指す方向のもと、市町、JA等の関係機関・団体で構成する地域協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーの方々や部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力により普及活動を展開しています。

農業を取り巻く情勢は、年々激しくなる気象の変動、資材価格の高騰、労働力の不足等と厳しく、農業経営に大きな影響を及ぼしています。

普及指導センターでは、これら諸課題の解決を図るため、「多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして！」を普及活動のスローガンに掲げ、2つのプロジェクト課題と7つの部門別課題に取り組んできました。

この成果集は、重点野菜のブランド化や大豆新品種「ふくよかまる」の振興、JA生産部会のワンヘルスの推進等の普及活動事例のほか、主な表彰等についても紹介させていただきました。農業者の皆様や関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも普及指導センターは、現場の声にお応えしながら「担い手づくり、産地づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年3月

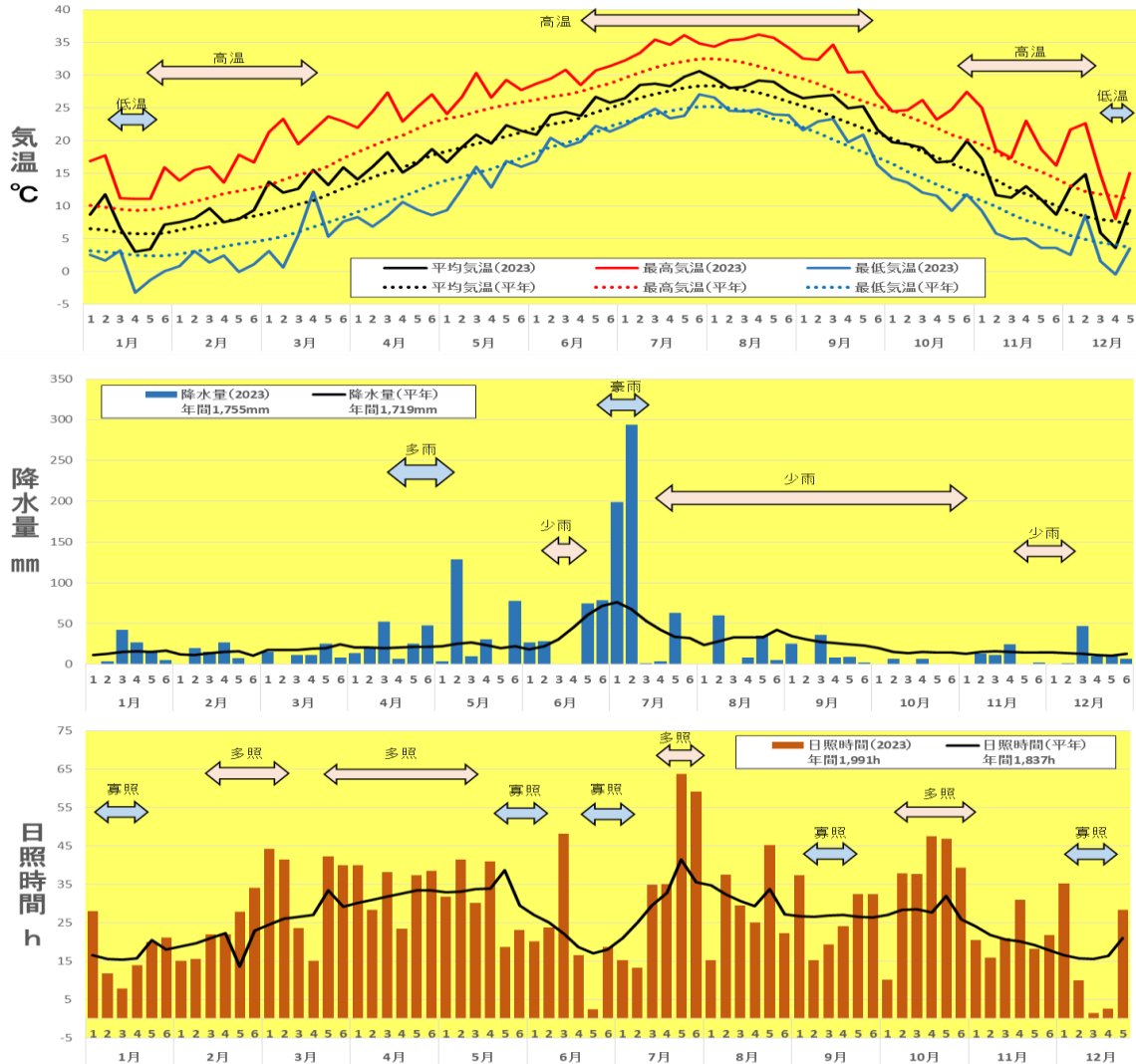
福岡県北九州普及指導センター

センター長 佐伯 孝浩

目 次

1	令和5年 気象及び作物の生育概況	1
2	成 果	
	(1) 北九州地域の担い手づくり 新規就農者の確保と経営安定	2
	(2) 重点野菜推進及び担い手育成による門司・小倉地域の活性化	4
	(3) 地域を元気にする多様な担い手の育成	6
	(4) 水田農業における担い手の経営力強化と多様な転作作物の振興	7
	(5) 若松地域における露地野菜農家の生産・経営安定に向けた取組	8
	(6) 花き新品目の検討と新規花き生産者確保の取組	9
3	主な展示ほの結果の概要	10
4	トピックス	
	・雇用労働力活用に向けた取組	12
	・県青年農業士会相互情報交換会を岡垣町で開催	
	・JA北九生産部会でワンヘルスに取り組み	13
	・大豆収量向上に向けた取組	
	・スマートグラスを用いたイチゴほ場のリモート現地検討会を実施	14
	・地域特産果樹の生産安定と産地の維持拡大に向けた取組	
	・小倉牛の出荷頭数増加に向けた取組	15
	・地域農業の発展に貢献された俵口和義氏が受賞	
	・麦作共励会で浪松薫氏が優秀賞（県知事賞）を受賞	16
	・大豆作共進会で植本利雄氏が優秀賞を受賞	
5	現地活動情報・活動体制	
	・令和5年度 現地活動情報一覧	17
	・令和5年度 普及指導センターの活動体制	18

1 令和5年 気象及び作物の生育概況



- 1月24～26日の極低温により、ビワの早生品種に凍害が発生しました。
- 2～3月の高温で麦や野菜の生育が進み、野菜では収穫が早まりました。
- 5月は、降水量が多く田植えは順調に進みましたが、6～7日の集中豪雨により麦の倒伏が発生しました。6月下旬～7月上旬に降雨が続いたため、大豆の播種は6月20日前後と7月中旬以降に実施されました。
- 8～11月まで高温少雨が続きました。8月は記録的な高温が続き、スイカの裂果やイチゴ苗の生育不良、ナスの草勢低下、また、イチジクの品質低下を招きました。8月下旬からのキャベツ、ブロッコリーの定植は順調に進みましたが、8月定植では定植後の枯死が多発しました。また、少雨の影響で露地野菜は初期生育が遅れ小玉傾向となりました。

大豆は少雨の影響で小粒傾向となりましたが、倒伏が少なく、生育量が確保されたことから、平年よりも収量は伸びました。

2 成果

北九州地域の担い手づくり ～新規就農者の確保と経営安定～

1 背景

北九州地域の基幹的農業従事者は減少が続いており、65歳以上の割合は県平均より高く、地域農業の担い手の確保・育成が急務となっています。

そのため、新たな担い手の確保・育成・定着に向けて、関係機関と先進農家等との連携による北九州地域全体を対象とする新規就農者支援体制が整備されてきました。それらを活用した新規就農者の確保と、新規参入者の早期経営安定支援に取り組みました。

2 取組内容

(1) 新規就農・就業者の確保

管内では、北九州地域全体をカバーする県認定研修機関である「北九州地域農業次世代人材育成協議会（事務局：北九州市）」が設置されています。本年度は、1名の方に研修を実施しました。普及センターでは、研修の実施とともに研修生の就農までの準備等の支援を関係機関と協力して実施しました。

また、就農相談等についても、各市町との担い手育成会議で、就農希望者それぞれの事情に応じた就農方法について検討するなど支援を実施しました。

北九州西部農振協担い手部会では、昨今の資材高騰の影響もあり、新規就農者が低コストで就農するために、既存ハウスのリスト化を実施し、中古ハウス情報把握の準備を開始しました。



就農相談状況



研修者の支援

(2) 新規就農者の経営確立

就農3年未満の方に対して、営農基礎講座を開催しました。内容は、①土づくり、②農薬安全使用、③経営管理、④先輩農家のほ場視察などを行い、延べ24名が参加しました。③、④では就農5年以下の方に参集範囲を広げて開催し、先輩農家との情報交換ができるようにしました。

また、各市町との担い手育成会議では、新規就農者の営農状況についての情報共有や個別課題解決に向けた検討を行い、巡回指導等のフォローアップを行いました。

特に認定新規就農者15名（平成30年度から令和4年度認定）を重点指導対象者と位置づけ、関係機関と協力し、個別の栽培技術・経営指導を実施しました。



営農基礎講座

3 成果

(1) 新規就農・就業者の確保

令和5年度は、北九州地域で新たに16名（自営就農者10名、雇用就業者6名）が就農・就業しました。

また、3名が農業大学校研修科や北九州地域農業次世代人材育成協議会にて研修中であり、令和6年度には経営を開始する予定です。今後も関係機関と連携した支援を継続し、新規就農に結び付くよう進めていきます。

(2) 新規就農者の経営確立

平成30年～令和4年に青年等就農計画の認定を受けて就農した12経営体のうち1経営体が、目標年度である就農5年目の売上目標を達成しました。

また、新たに経営を開始した経営体の中には、単収において、部会のトップクラスになる方が増えています。今後もきめ細やかな支援を継続していきます。

重点野菜推進及び担い手育成による門司・小倉地域の活性化

1 背景

小倉南区の園芸産地では、生産者の高齢化が進み生産量が低迷していることから、生産性向上や就農定着に向けた支援が課題となっています。そこで、令和3年度から新たに大葉しゅんぎくとハウレンソウを重点品目に選定し、関係機関で推進しています。併せて、園芸産地の活性化に向け、野菜集出荷場の再整備計画が進んでいます。

また、門司・小倉地域の集落は未整備田が多く、水田農業の担い手が減少していることから不耕作地が増加しています。そのため、各集落における将来の営農ビジョンの策定をすすめています。

2 取組内容

(1) 園芸の重点品目の推進及び新規就農者の定着

門司・小倉営農協議会（構成：北九州市、JA、農林事務所、普及指導センター）で、以下の3点に取り組みました。

- ① 大葉しゅんぎくのブランド力強化に向け、昨年度に引き続き、地域プロデュースコンサルタントを招き、出荷組合の若手会を中心に検討会を行いました。ハウレンソウの夏季高温期の出荷量拡大に向け、チェーンポット苗の定植実証を行いました。
- ② 集出荷場整備に向け策定された地域営農ビジョンに位置付けられたエダマメの産地育成に向け、チェーンポット苗の定植実証ほを設置しました。
- ③ 新規就農者9名を対象に、個別巡回指導を行い、技術力向上、販売額向上を支援しました。



大葉しゅんぎくブランド強化検討会



エダマメチェーンポット苗の実証
(右：試験区)

(2) 集落担い手の育成

門司・小倉営農協議会で、3集落をモデル地区に選定し、地域計画策定等の検討を行いました。また、3集落の担い手に対して、個別課題を聞き取り、解決を支援しました。

3 成果

(1) 園芸の重点品目の推進及び新規就農者の定着

① 大葉しゅんぎくブランド強化検討会

では、ブランド名や商標を取得することが決まりました。そのほか、ブランディングに向けた方策（レシピ集の作成、記者発表や農業まつりを活用したPR、栽培方法の統一等）を決めました。

普及指導センターとしては、検討会の進行支援や若手会立ち上げの提案、部会役員との調整等、ブランド強化に向けた活動を支援しました。今後も、栽培方法の統一の検討や出荷量の平準化等、技術的な面から支援していきます。



大葉しゅんぎく出荷量平準化に向けた聞き取り調査

ハウレンソウの夏季高温期におけるチェーンポット苗の定植実証は、農家から省力で品質も高いと、非常に高い評価を得ました。

② エダマメの実証までは、ほ場の有効利用及び定植労力の省力化の点でチェーンポット苗の活用が有効であること及び、作型、品種ごとの収量性を明らかにしました。

③ 新規就農者は、個別巡回指導の結果、2名の売上が向上しました。また、ヒアリングを通して労力確保が課題であることが分かったため、1日バイトアプリの推進や雇用導入に向けての勉強会を行いました。

(2) 集落担い手の育成

モデル地区での地域計画策定には至りませんでした。座談会や関係機関との意見交換を通して、今後の集落の方向性について検討しました。

また、3集落の主要な担い手の個別課題を聞き取り、個別対応を行った結果、堆肥利用による持続可能な水稲経営の実現、後継者への経営継承への道筋の整理等、課題の解決につながりました。

地域を元気にする多様な担い手の育成

1 背景

地域農業の発展には、新規就農者から企業的経営体まで、多様な担い手が必要です。

そこで、普及指導センターでは、地域で育成すべき経営モデルを作成し、選定した経営体に対して経営改善支援に取り組んでいます。

また、多様な担い手育成の一環として、女性農業者が経営に主体的に参画することを推進しています。

2 取組内容

(1) 経営体育成支援

経営体育成支援対象者として、11 経営体を選定し、課題解決に向けた支援をしました。

具体的には、売上や所得の向上に向けた品目の組合せの改善や、専門家とともに事業承継や労務管理について相談対応を行いました。

また、県主催のトップランナー育成コースを受講する経営体のビジネスプラン策定を支援するとともに、これまでプランを策定した経営体の目標達成を支援しました。



専門家（社会保険労務士）による
労務管理に関する相談の様子

(2) 女性農業者の経営参画促進

新品目導入支援事業を活用し、女性農業者が自身の農業経営に新たな品目を導入することや、経営改善計画の作成を支援しました。

また、管内の就農5年未満の若手女性農業者と女性農村アドバイザー等の合同研修会を3回開催し、先輩女性農業者のほ場見学や経営参画に関する情報交換を行いました。



研修会でのほ場見学の様子

3 成果

経営体育成支援対象者については、改善目標を設定し、支援することで、売上や所得の向上、就業規則の策定などの経営改善につながりました。

また、1名の女性農業者に対して新品目（LA ユリ）の導入と経営改善計画の作成を支援しました。

水田農業における担い手の経営力強化と多様な転作作物の振興

1 背景

水田農業における担い手の減少が進む中で、集落営農組織や個別大規模経営体に対する期待が大きくなっています。これら主要な担い手の生産性向上や、持続的な農業を目指した経営改善を図るため、農業経営診断やICT（情報通信技術）による省力・低コスト化技術などの経営力強化に向けた支援を行いました。

2 取組内容

(1) 経営力強化に向けた支援

集落営農法人や個別大規模経営体に対して、経営コンサルティングを行い、コンサルタント派遣事業やキャリアアップ講座などを利用し、経営改善目標の達成に向けた支援を行いました。また、研修会などを通じてスマート農機の理解を進めるとともに、水稻の密播疎植栽培など省力・低コスト化技術を推進しました。

(2) 多様な転作作物の振興

大豆新品種「ふくよかまる」の特徴を活かす『早播き』の重点的指導とともに、播種期ごと（早播き・標準播き・晩播）に展示ほを設置し、管理作業や病虫害防除などの情報を発信しました。

米粉用米品種「ミズホチカラ」は、講習や現地巡回により管理の徹底を図るとともに、新たな新規需要米品種の導入の可能性を評価するため、米粉用米品種「ふくのこ」の展示ほを設置しました。



「ふくよかまる」早播き展示ほ

3 成果

1 経営体で福利厚生充実のための就業規則が策定され、経営改善目標が達成されました。また、ICTの活用促進について、4経営体で直進アシスト田植え機やクラウドシステムが導入されました。

大豆新品種「ふくよかまる」は『早播き』等により生育量が確保できたことから、昨年に比べ平均単収は向上しました。

米粉用米品種「ミズホチカラ」は、分けつ期の寡照による穂数不足とカメムシ類の発生により、昨年に比べ低収となりました。また、米粉用米品種「ふくのこ」は、「ミズホチカラ」に比べて収量性が劣ることから、「ミズホチカラ」並の収益を確保するには、販売単価を高く設定する必要が示されました。

若松地域における露地野菜農家の生産・経営安定に向けた取組

1 背景

北九州市若松地域では、冬季は露地野菜であるキャベツ・ブロッコリーが主幹品目として作付けされています。しかし、近年の気候変化で生産面が安定しないことによる価格低迷や社会情勢に伴う資材高騰等による経費の上昇で所得低下が課題となっています。そこで、主幹品目であるキャベツ・ブロッコリーの生産量の安定化及びリスク分散を目的に補完品目の拡大・推進による経営安定の支援に取り組みました。

2 取組内容

(1) 主幹品目の生産安定

適期定植による年内出荷量の安定化を図るため、講習会で管理情報の提供や排水対策の推進を行いました。また、安定した出荷を目指し、作型選定のための品種試験、省力化や低コストのための肥料・緑肥の展示ほの設置を行いました。



キャベツ肥料展示ほ調査

(2) 補完品目の拡大・生産安定

北九州市の学校給食向けの出荷品目についてJAと協議を行い、出荷場の出荷・調製場所が足りない等の課題整理や新たな推進品目の検討を行いました。今年度は試験的に春出のニンジン栽培しました。また、個別巡回や栽培管理指導を実施し、補完品目の拡大・推進を図りました。



育苗施設を活用したニンジン栽培

3 成果

主幹品目の適期定植率はキャベツが 81%→87%、ブロッコリーが 71%→72%となり、昨年度より向上しました。一方、年内出荷量は定植後の乾燥の影響が大きく、キャベツが 787t→548 t、ブロッコリーが 120t→81 t と昨年度より減少しました。

補完品目は1名が施設でニンジン、2名が露地でタマネギ、白ネギを拡大し、補完品目の作付面積が増加しました（施設 14a→16a 露地 4.3ha→4.4ha）。

次年度も主幹品目の安定出荷を図るため、個別巡回や講習会による栽培管理指導の実施、品種試験や肥料・緑肥試験を行います。また、更なる補完品目の導入・拡大に向け、品目の選定や推進資料の作成を行い、生産者の経営安定に向けた支援を行っていきます。

花き新品目の検討と新規花き生産者確保の取組

1 背景

北九州地域では、鉢物、切り花、苗物といった多様な品目が生産されていますが、高齢化で生産者数、生産量が減少しています。そのため、JA北九花き部会や北九州市立総合農事センターと連携した新品目の検討や、花き新規栽培の推進を行いました。

2 取組内容

北九州市立総合農事センターと連携し、露地や無加温ハウスで、あまりコストをかけずに栽培できる補完品目候補として、盆・彼岸出しのケイトウや年末出荷のハボタンの展示栽培を行いました。また、新たな品目として、他地域であまり栽培されていない、パイナップルリリー等の栽培試験及び増殖試験を行い、花き部会員や新規花き栽培希望者への研修会で周知しました。



彼岸出しケイトウ展示栽培



花き部会員等への研修会

3 成果

ケイトウは、現地栽培試験の結果、イチゴ農家等5名が夏季の補完品目として導入することになりました。今後も作付けが広がる機運が高まっています。

また、栽培にあまり手がかからない品目として、アデナントス、パイナップルリリー、メラレウカの3品目を選定しました。花き部会員や栽培希望者に増殖した種苗を配布し、栽培が開始されました。



アデナントス



パイナップルリリー



メラレウカ

3 主な展示ほの結果の概要

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
水稲	岡垣町	[奨励品種の現地調査] 奨励品種「ちくし102号」「ちくし104号」は、「夢つくし」に比べ、いもち病及び白未熟粒の発生が少なく、収量も同等以上であった。
水稲	小倉南区	[基肥一発肥料の検討] 緩効性肥料「トリプルエムコート」は、夢つくし栽培で慣行肥料「エムコート2220」と同等の施肥効果が認められた。
水稲	遠賀町	[被覆尿素肥料の検討] 易分解性被覆尿素「Jコート」は、夢つくし栽培で慣行肥料「エムコート2000」と同等の施肥効果が認められた。
大豆	中間市	[「ふくよかまる」の播種時期の違いによる収量性の比較] 播種時期の異なるほ場（6/18、7/18.21、7/30）にて収量を比較した結果、収量は、7/18.21播種、6/18播種、7/30播種の順で高くなった。
小麦	遠賀町	[緩効性追肥の検討] 緩効性追肥「麦追肥1号」は、チクゴイズミ栽培で慣行資材「グッドIB」と同等の施肥効果が認められた。
エダマメ	小倉南区	[チェーンポット苗利用による省力化の検討] 定植作業の省力化を図るために、「ひっぱりくん」を用いたチェーンポット苗による移植栽培試験を行った結果、慣行区と同等の収量が認められた。
エダマメ	小倉南区	[時期別の品種、収量性の検討] 3月～6月播種の露地エダマメ（移植栽培を含む）5品種における、品種別収量を明らかにした。

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
キャベツ ブロッコリー	若松区	[緩効性肥料を用いた追肥の省力化の検討] 緩効性肥料「露地野菜 420」はキャベツ、ブロッコリーの慣行肥料「くみあい 48」「ベスト 444」と同等の施肥効果が認められた。
キャベツ ブロッコリー	若松区	[緑肥の検討] イネ科の「ソルゴー」、マメ科の「クロタラリア」を用いて産地に推奨する緑肥の品目を検討した結果、「ソルゴー」の生育が優れていた。
かんきつ	若松区	[再生リンを利用した低コスト肥料の検討] 再生リンと堆肥を原料とする低コスト肥料「e・green」は、慣行肥料と比べ、生育の差は認められなかった。
パイナップル リリー	小倉南区	[施肥及び開花・品質保持期間の検討] 新植と据置（2年目）で施肥試験を実施した結果、施肥の有無による差は認められなかった。また、切り花は、収穫後 10 日程度の日持ちがすると見込まれた。
シクラメン	小倉南区	[6 号鉢生産に適した底面給水液肥濃度の検討] シクラメン 6 号鉢を 8 月～30ppm、9 月～50ppm の底面給水液肥で栽培した結果、慣行栽培と同程度に生育した。
飼料作	八幡西区	[夏作に適した専用品種の検討] 自給飼料確保の支援のため、3 種の専用品種で栽培試験を行った結果、「青葉ミレット」と「ネオウまかろーる」の生育が優れていた。

4 トピックス

雇用労働力活用に向けた取組 ～農業経営者とパネルディスカッションを実施～

雇用労働力の導入を検討する農業者が増えていることを受け、普及指導センターが事務局を務める北九州地域担い手・産地育成総合支援協議会では、「雇用労働力を活用した農業経営」をテーマに研修会を開催しました。

研修会では、実際に雇用労働力を活用している3経営体の代表者を招き、パネルディスカッション形式により人材の採用、人材育成について事例報告や意見交換を行いました。

質疑応答では、参加者から、採用面接時の注意点、具体的な給与水準などについて質問があり、各パネリストは自身の事例を踏まえ回答していました。

終了後、「実際に雇用をしている方の話が聞けて参考になった」、「これからの自分の経営に生かしたい」などの感想が出ていました。

今後も関係機関とともに、雇用労働力を活用した経営支援に取り組んでいきます。



パネルディスカッションの様子

県青年農業士会相互情報交換会を岡垣町で開催 ～異業種交流と鳥獣害対策について学ぶ～

北九州地域の青年農業士で組織する、県青年農業士会八幡支会は、令和6年1月19日に福岡支会及び行橋支会と合同で相互情報交換会を開催し、青年農業士12名が参加しました。

当日は、岡垣町において、イチゴほ場や地場産原料を使うワイナリーやビール工房を視察し、農福連携の取組状況や異業種目線での農業の魅力などについて意見交換を行いました。視察後、猟師が経営するジビエ料理屋にて、県内のイノシシやシカの生息状況、狩猟現場やジビエ加工について、実際に料理を食しながら、説明を受けました。

今回の情報交換会では、ワインやビールの製造など6次産業化による地域活性化の可能性、狩猟やジビエを通じた鳥獣被害の防止について活発に意見交換を行い、懇親を深めることができました。

今後も、普及指導センターは、若手農業者のリーダーである青年農業士の研鑽を支援していきます。



ビール工房で説明を受ける青年農業士

J A北九生産部会でワンヘルスに取り組み ～ワンヘルス認証取得に向けて 40 部会で認証申請～

J A北九の各生産部会では、資材価格の上昇への対策として、肥料価格高騰対策事業や出荷資材高騰対策事業に取り組みました。

土壌分析の実施や稲わらの鋤き込み、GAP、学校給食への供給についての検討を行い、環境負荷低減に係わる取組が増加しました。

その結果、部会単位でのワンヘルス認証申請も可能となり、イチゴ部会、キャベツ部会をはじめ、40 部会がワンヘルス認証を申請しました。

今後も、普及指導センターは、化学肥料代替技術や環境負荷低減対策の推進を通じて、生産者のワンヘルスの取組を支援していきます。

福岡県ワンヘルス認証



大豆収量向上に向けた取組 ～令和5年産より新品種「ふくよかまる」に全面切替～

J A北九大豆部会では令和5年産より「フクユタカ」から新品種「ふくよかまる」に全面切替が行われました。

北九州普及指導センターでは、平成27年産より栽植密度や施肥量の検討など実証試験区を設け、「ふくよかまる」の安定生産に向けた取組を実施してきました。また、全面切替となった令和5年産では、「ふくよかまる」の早播き適性を活かした6月播きや、梅雨末期の大雨対策としての明渠施工を指導しました。

北九州普及指導センターでは新品種「ふくよかまる」の導入を起爆剤として、生産者及び関係機関とともに、大豆の収量向上を目指して取り組んでいきます。



6月播きにおける明渠の施工

スマートグラスを用いたイチゴほ場のリモート現地検討会を実施 ～匠の技術を新規就農者へ～

J A北九遠賀中間地区いちご部会で、「あまおう」匠の技伝承事業の一環として、スマートグラスを用いたリモート現地検討会を実施しました。

「あまおう」匠の技伝承事業とは、スマート農業技術を活用して、あまおう熟練生産者の技術を新規就農者へ効率的・効果的に伝承することを目的とした事業です。この事業で用いられるスマートグラスは、装着した人の視界の映像をリアルタイムで送信できる機器です。

リモート現地検討会では、新規就農者のほ場の映像を距離の離れた会議室のスクリーンに映し、熟練生産者がその映像を見ながら今後の管理について指導を行いました。また、病害虫の発生状況について新規就農者の質問に答える形で情報交換を行いました。

今後も生産者及び関係機関と共に、新規就農者の支援をはじめとしたイチゴの生産支援に取り組んでいきます。



スマートグラスを着用した新規就農者



会議室で映像を確認する熟練生産者

地域特産果樹の生産安定と産地の維持拡大に向けた取組 ～いちじく産地の維持に向けて～

北九州地域では、びわ、みかん、いちじく等の果樹が生産されていますが、どの品目においても、高齢化や所得の低下により、生産者数と生産量が減少しています。その中でも、J A北九いちじく部会は、部会員の平均年齢が71歳と高く、直近の10年間で部会員数は4割減少しており、産地の存続が危ぶまれる状況となっています。そこで、普及指導センターでは、既存の生産者支援の取組に加えて、今後の生産者数や栽培面積の動向を予測するなど、J Aや部会組織と連携し、産地維持に向けた活動を行ってきました。

予測の結果は、今後10年間でさらに4割の部会員が減少するという厳しいものとなりましたが、J A、部会役員に危機感を共有してもらうことで、産地維持に向けた課題について真剣に検討を行いました。

今後、生産者及び関係機関と共に、いちじく産地の維持に向けた課題を整理し、取組を進めていきます。



生産者巡回支援

小倉牛の出荷頭数増加に向けた取組 ～新たな出荷者が誕生しました～

普及指導センターは、出荷者、北九州市及び農協等と連携して、小倉牛の希少なブランド牛としてのPR、市内での消費拡大に取り組んでいます。

小倉牛は、北九州市内で16ヶ月以上飼養された26ヶ月齢以上の黒毛和牛で、肉質等級4以上またはBMS5以上等の基準をクリアした牛のみが認定されます。

平成21年は出荷者7名が140頭出荷しましたが、令和4年は出荷者4名が47頭出荷となり、生産規模が縮小していました。

しかし、関係機関との継続的な取り組みにより、小倉牛は地域に根付いたブランドとして高価格で取引されることから、新しく小倉牛出荷に取り組む出荷者が誕生し、次年度は70頭近くの出荷を見込んでいます。

今後も出荷者及び関係機関と連携し、小倉牛のブランド維持と出荷頭数増加に取り組んでいきます。



新規出荷者の鼻紋採取の様子
(牛の個体識別のため)

地域農業の発展に貢献された俵口和義氏が受賞 ～福岡県農業指導功労者表彰～

岡垣町で水稻、麦、スイートコーンの経営を行っている俵口和義氏が福岡県農業指導功労者として、令和6年1月19日の福岡県青年農業者会議で表彰されました。

俵口氏は、自家製堆肥を用いた土づくりにより、ふくおかエコ農産物認証に取り組み、顧客づくりを進められるとともに、地域の小学生を対象とした食育活動や消費者を対象とした枝豆の栽培・収穫体験などを長年続けてこられました。

また、農業大学校の学生や外国からの研修生を受け入れられるとともに、岡垣町認定・志向農業者連絡会会長として、空きハウスの調達と空き家情報の収集、農業委員会と協力した農地情報の収集を行い、積極的に就農者の確保に努めてきました。

長年に渡り、地域農業の発展に貢献された実績が評価され、今回の表彰となりました。



麦作共励会で浪松薫氏が優秀賞（県知事賞）を受賞 ～高収量・高品質麦の生産が評価される～

令和5年度福岡県麦作共励会において、遠賀町の浪松薫氏が農家の部で優秀賞を受賞されました。

同氏は、米・麦・露地野菜を作付けしている認定農業者です。令和5年産は、大麦「はるか二条」215a、小麦「チクゴイズミ」450aを栽培しました。

麦栽培管理上の特色としては、湿田など条件不利地を抱える中で、弾丸暗渠などの排水対策はもちろん、排水条件の良いほ場に優先的に大麦を作付けする等、麦の特性に合わせた栽培を実践されています。さらに、有機物や土壌改良資材の投入、踏圧や土入れなどの中間管理作業など基本技術を忠実に実践し、地域平均を大きく上回る収量を確保しました。また、人・農地プランの中心経営体として位置づけられており、地域の重要な担い手として活躍されています。これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



大豆作共進会で植本利雄氏が優秀賞を受賞 ～作況が低い条件下でも高収量の生産が評価される～

令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会において、中間市の植本利雄氏が農家の部で優秀賞を受賞されました。

同氏は、米の生産調整が始まった頃からおよそ50年間、大豆栽培を行っており、令和4年は約1.4haを栽培しました。

大豆栽培管理上の特色としては、周囲溝や弾丸暗渠による排水対策に加え、地力の低下による収量減少対策を実施しています。自身で簡易土壌分析計を用いてほ場ごとにpH測定を行い、土壌改良資材の散布による土作りに力を入れています。また、農業機械の共同購入や共同利用を積極的に行い、生産コストの低減にも取り組んでいます。

令和4年産大豆は、徹底した排水対策、雑草防除および適期作業によって、地域の平均単収の約2倍の収量となり、併せて高い品質を確保しました。また、地域の機械利用組合長をはじめ、様々な役職を歴任し、重要な担い手として精力的に活動されています。これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



5 現地活動情報・活動体制

令和5年度 現地活動情報一覧

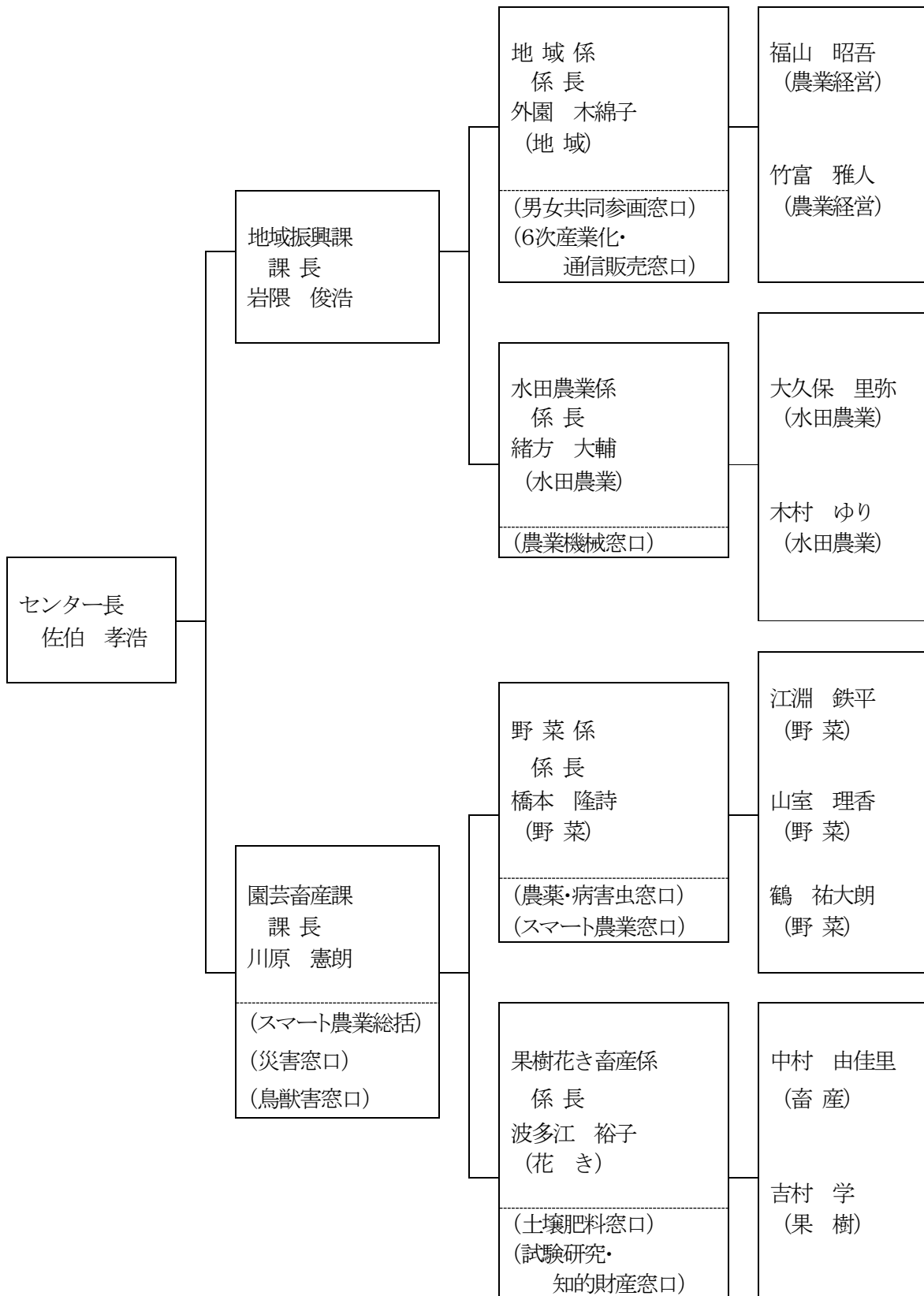
(令和6年2月末日現在)

No.	表題 (タイトル)	係名	公開月
1	「高倉びわ」が出荷ピーク 露地びわ出荷目合わせ会を開催	果樹花き畜産係	6月
2	赤しその出荷が本格化 遠賀地域特産の初夏の風物詩!	野菜係	6月
3	若松ブランドスイカの出荷が最盛期 若松クイーンと若松潮風®プレミアム	野菜係	8月
4	パイナップルリリーの切り花産地を目指して 北九州市総合農事センターで開花中	果樹花き畜産係	8月
5	消費税インボイス制度の仕組みを知ろう さんさんクラブ北九州総会及び研修会開催	地域係	8月
6	営農基礎講座を開催 農薬適正使用や土壌肥料について学ぶ	地域係	8月
7	若手生産者がブランド強化に取組中! 「小倉大葉しゅんぎく」の消費拡大を目指して	野菜係	9月
8	大分県の白ネギ先進地を視察 八幡白ネギの高品質・安定生産を目指して	野菜係	10月
9	高品質種子の更なる安定生産を目指して 採種部会員を対象に麦の栽培講習会を実施	水田農業係	11月
10	冬季も北九州市内産の花きが出荷されています シクラメン及び花苗の出荷	果樹花き畜産係	12月
11	女性農業者対象の研修会を開催 女性リーダーの講演とフルーツカッティング	地域係	1月
12	小倉牛の出荷頭数増加に向けた取組 新たな出荷者が誕生しました	果樹花き畜産係	2月
13	営農基礎講座を開催 土づくりや先輩農家の経営について学ぶ	地域係	2月
14	高品質な採種麦の生産技術継承に向けて 採種部会員を対象に互評会を実施	水田農業係	2月
15	県青年農業士会相互情報交換会を岡垣町で開催 異業種交流と鳥獣害対策について学ぶ	果樹花き畜産係	2月
16	直売所栽培講習会を開催 高品質な春夏野菜の生産に向けて	野菜係	2月

下記の福岡県ホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/5kitakyu-katudo-joho.html>

令和5年度 普及指導センターの活動体制



福岡県行政資料			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703305	05	0001

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター
〒807-0831 北九州市八幡西区則松3-7-1
八幡総合庁舎 2F
TEL: (093)601-8855 / FAX: (093)601-8869
E-mail: kitakyu-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>